

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成28年度 第5回 入間市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成29年1月17日(火) 午後1時30分 開会、午後3時15分 閉会
開 催 場 所	入間市リサイクルプラザ 2階研修室
議 長 氏 名	入間市廃棄物減量等推進審議会 会長 小林昌幸
出席委員(者)氏名	相葉 学 池谷 浩 岡野こずえ 奥山重信 釦持和夫 小林昌幸 篠塚玲子 関根精隆 多田ひとみ 沼井里恵 向野康宏 森谷秀一 山本有男
欠席委員(者)氏名	永井健一 和田伸二
説明者の職氏名	環境経済部長 山崎利明 環境経済部参事兼総合クリーンセンター所長 秋元 満 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 環境経済部副参事(管理業務担当兼宮寺清掃センター所長) 横田一洋 総合クリーンセンター(事務局) 副主幹 齋藤政弘
会 議 次 第 (公 開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 諮問事項に対する審議 (2) その他 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	入間市一般廃棄物処理基本計画 ごみ処理基本計画編【改訂素案】の訂正内容
事務局職員職氏名	環境経済部長 山崎利明 環境経済次長 長谷川 功 環境経済部参事兼総合クリーンセンター所長 秋元 満 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 環境経済部副参事(管理業務担当兼宮寺清掃センター所長) 横田一洋 総合クリーンセンター(事務局) 主 幹 廣瀬光太郎 主 幹 増岡貞夫 副主幹 齋藤政弘
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

○議題

(1) 諮問事項に対する審議

事務局より【資料】（改訂素案の訂正内容）を用いて説明を行った。

(2) その他

事務局より次の点について説明を行った。

- ・ 次回会議の日程について

○その他

- ・ ごみ減量講演会の開催について

以上

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容										
<p>(増岡主幹) 小林会長 小林議長</p> <p>各委員 小林議長</p>	<p>1 開 会 (配布資料の確認を含む。)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>本日の出席委員の人数は、13名です。よって、「入間市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項」の規定に基づき、委員の半数以上が出席しておりますので、会議は成立となります。</p> <p>続きまして、本日の会議録の署名について、「議長のほかに1名以上ということですので名簿順で篠塚委員にお願いしたいと思います。ご異議ありませんか。</p> <p>「異議なし」の声</p> <p>それでは、議事に入ります。本日の議題は2点となっております。1点目としまして『諮問事項に対する審議』、2点目に『その他』となっております。はじめに議題(1)『諮問事項に対する審議』について、事務局から説明をお願いします。</p>										
<p>(齋藤副主幹)</p>	<p>それでは事務局より説明させていただきます。使用する資料は前回会議で配布済みの「入間市一般廃棄物処理基本計画【改訂素案】」と、今回配布の「同【改訂素案】の訂正内容」の2種類です。</p> <p>※上記2種類の資料を使用し、以下の内容について要点説明を行う。</p> <p>はじめに、今回配布の「【改訂素案】の訂正内容」から説明する。</p> <p>①P9</p> <p>下段表 1人1日あたりのごみ総排出量の推移</p> <table border="0" data-bbox="582 1429 1214 1518"> <tr> <td>平成25年度</td> <td>ごみ総排出量</td> <td>899</td> <td>→</td> <td>901</td> </tr> <tr> <td></td> <td>家庭ごみ</td> <td>684</td> <td>→</td> <td>686</td> </tr> </table> <p>②P18</p> <p>第6節 最終処分場の現状</p> <p>埋立予定期間 ～44年度 → ～40年度</p> <p>③P21</p> <p><u>2 資源化</u> 下記の網掛けを加筆し、二重線部を削除する。</p> <p>本市の環境基本計画で定める目標の30%以上を達成するためには、焼却灰の資源化に加え、新たな容器包装廃棄物の資源化や生ごみ等のバイオマス資源の活用の可能性を研究します。また、破碎処理後、埋立処分している硬質プラスチック類や小型家電、雑がみ等のさらなる資源化に努めるを検討する必要があります。</p>	平成25年度	ごみ総排出量	899	→	901		家庭ごみ	684	→	686
平成25年度	ごみ総排出量	899	→	901							
	家庭ごみ	684	→	686							

発 言 者	発 言 内 容																										
	<p>④25ページ 中段表 排出量 平成32年度 44,237 → 44,238</p> <p>⑤26ページ 上段表 総排出量 平成32年度 46,871⇒46,872</p> <p>⑥30ページ 第二次入間市環境基本計画の概要【裏面参照】 進行管理指標 網掛けを加筆し二重線部を削除する。</p> <table border="1" data-bbox="491 772 1436 1361"> <tbody> <tr> <td>・可燃ごみの焼却処理量</td> <td>40,910t/年</td> </tr> <tr> <td>・生ごみ処理機器購入費補助件数</td> <td>40基 延べ1,300基</td> </tr> <tr> <td>・事業系ごみの処理量</td> <td>9,570t/年</td> </tr> <tr> <td>・資源再利用団体の登録数、回収量</td> <td>260団体 3,600t/年</td> </tr> <tr> <td>・ごみの資源化率（ごみ総回収量に占める割合）</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>・公共工事に伴う建設副産物の発生量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・学校給食センターにおける生ごみの資源化率</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>・フリーマーケットの開催回数</td> <td>年10回</td> </tr> <tr> <td>・レジ袋削減キャンペーンの実施</td> <td>年1回</td> </tr> <tr> <td>・ごみ減量推進活動モデル自治会の数</td> <td>12自治会</td> </tr> <tr> <td>・市民清掃デーの参加世帯数及び参加率（参加世帯数／全世帯数）</td> <td>40,000世帯 85%</td> </tr> <tr> <td>・不法投棄パトロール実施回数</td> <td>週6回</td> </tr> <tr> <td>・ごみ焼却施設の排出ガス測定回数</td> <td>年1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>次の内容に移らせていただきます。前回会議では改訂素案P1～P30をお配りし、個々に要点を説明させていただいたところです。本日もご審議をいただく前に、前回会議を欠席された方もいらっしゃいますので、もう一度改訂素案の要点を説明させていただき、その後ご意見をいただきと思います。</p> <p>なお、ページ数が多いため、数ページに分けて説明を進め、その数ページの内容ごとにご意見をいただくというかたちで会議を進めさせていただきます。ご審議いただく時間も限られておりますので、いただきました質問等で即答できないものについては、次回会議で回答させていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、P1～P4の要点を説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P1 市の概要 大きな変更なし。 ・P2 世帯数については核家族化の影響もあり増加傾向にある。 ・P3 個別物品の特性に応じた規制に小型家電リサイクル法を追加。 	・可燃ごみの焼却処理量	40,910t/年	・生ごみ処理機器購入費補助件数	40基 延べ1,300基	・事業系ごみの処理量	9,570t/年	・資源再利用団体の登録数、回収量	260団体 3,600t/年	・ごみの資源化率（ごみ総回収量に占める割合）	30.0%	・公共工事に伴う建設副産物の発生量		・学校給食センターにおける生ごみの資源化率	90%	・フリーマーケットの開催回数	年10回	・レジ袋削減キャンペーンの実施	年1回	・ごみ減量推進活動モデル自治会の数	12自治会	・市民清掃デーの参加世帯数及び参加率（参加世帯数／全世帯数）	40,000世帯 85%	・不法投棄パトロール実施回数	週6回	・ごみ焼却施設の排出ガス測定回数	年1回
・可燃ごみの焼却処理量	40,910t/年																										
・生ごみ処理機器購入費補助件数	40基 延べ1,300基																										
・事業系ごみの処理量	9,570t/年																										
・資源再利用団体の登録数、回収量	260団体 3,600t/年																										
・ごみの資源化率（ごみ総回収量に占める割合）	30.0%																										
・公共工事に伴う建設副産物の発生量																											
・学校給食センターにおける生ごみの資源化率	90%																										
・フリーマーケットの開催回数	年10回																										
・レジ袋削減キャンペーンの実施	年1回																										
・ごみ減量推進活動モデル自治会の数	12自治会																										
・市民清掃デーの参加世帯数及び参加率（参加世帯数／全世帯数）	40,000世帯 85%																										
・不法投棄パトロール実施回数	週6回																										
・ごみ焼却施設の排出ガス測定回数	年1回																										

発 言 者	発 言 内 容
小林議長 森谷委員 (石川副参事)	<p>・ P 4 今般の改訂は平成27年度中間目標を検証するもの。</p> <p>この部分に関してご質問等がございますか。</p> <p>1点目として、今回の改訂にあたり P 1 終わりの2行を追加した意図を教えてください。2点目に、P 1 同一ページ内において、1行目で「首都圏近郊都市」という表現がありながら、最終行から2行目で「首都圏」と言い切っていることに違和感があり、どちらかに統一したほうがよいと思います。</p> <p>3点目に、P 1 「入間市の概況図」がありますが、図の文字が小さい上ににじんでおり、見づらいうように思います。また、平成24年改訂版にもあるように、図のタイトルの頭に番号を付してはいかがでしょうか。</p>
(山崎部長)	<p>まず1点目のご質問に対する回答です。P 1 の「市の概況」につきましては、「入間市公共施設マネジメント白書」を参考に作成したものであり、最後の2行のように追加した記載もございます。続いて2点目のご質問に対する回答です。ご指摘のとおり、「首都圏」という表現に統一したいと思います。最後に3点目のご質問に対する回答です。図につきましては、文字を大きくする等より見やすくなるよう対応をさせていただきます。また、図・表のタイトル部分の「付番」ですが、タイトルのすぐ下部分にそれを示す図や表があり一見してわかること、それに関する説明文も勘案し、今回の素案では、すべての図・表部分について付番表記を削除させていただきました。</p>
小林議長 (山崎部長)	<p>今の回答の2点目「首都圏」という表現についてですが、一般的に市として「入間市」を紹介あるいは説明する場合に、どのように行っていますか。</p> <p>やや私見となりますが、一つの考え方として、首都圏整備法の解釈では、首都圏といった場合、そこには埼玉県も含まれてまいります。それからしますと、入間市は埼玉県に属しているわけですから、「首都圏」という表現を用いても可かと思えます。ただ、「首都圏近郊都市」といった場合、とらえ方によっては、入間市が首都圏のさらに外側に位置しているような印象もございます。案としまして、首都である東京に隣接しているということで、前段部分については「圏」の文字をなくし「首都近郊都市」という表現を用い、後段部分は「首都圏」という表現をそのまま残すという考え方もあるかと思えます。</p>
小林議長 各委員 小林議長 (齋藤副主幹)	<p>今の内容について、事務局の一連の回答でよろしいですか。</p> <p>「異議なし」の声</p> <p>それでは、次の内容に移らせていただきます。事務局よりお願いします。</p> <p>続きまして P 5～P 11 の要点を説明させていただきます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 5 最下段に小型家電リサイクル、事業系ごみ手数料改定を追加。 ・ P 6 ごみ処理主体の最終処分欄等の表記を明確化。 ・ P 7 ごみ処理フローの再資源化・最終処分欄の表記を明確化。 ・ P 8～9 ごみ総排出量等の実績値に関し直近5年間を記載。 ・ P 10～11 処理・処分等の実績値に関し直近5年間を記載。
<p>小林議長 剣持委員</p>	<p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>P 7フロー図において、右側の再資源化・最終処分の欄で、委託と売却という記載がされていますが、委託は歳出、売却は歳入につながると理解してよろしいですか。</p>
<p>(秋元所長) 小林議長 森谷委員</p>	<p>考え方としましてはそのとおりでございます。</p> <p>ほかにごございますか。</p> <p>P 8上段のグラフ「ごみ総排出量の推移」において、「集団回収量」という記載がありますが、この用語の意味を教えてください。また、改訂素案の随所に、「ごみ排出量」と「ごみ総排出量」という用語があり、その違いについてもお願いします。先ほどの集団回収量など、市民にとって一般的に馴染みのない用語が登場する部分については、米印等で説明書きを加えてはいかがでしょうか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>まず、「集団回収量」ですが、これは各区・自治会、PTA、子ども会等が行う資源物回収のことを指しております。次に、「ごみ排出量」と「ごみ総排出量」ですが、ご指摘のように一般的にはわかりづらい用語でございます。この違いは、目次下段の算式にもございますように、「ごみ排出量」に今ご説明しました「集団回収量」が加わったものが「ごみ総排出量」というとらえ方でございます。</p> <p>いずれにしましても、これらのようなわかりにくい用語につきましては、それが登場する部分の下段や、改訂素案最終部分の用語解説欄におきまして説明文を記載する方向で検討させていただきます。</p>
<p>小林議長 各委員</p>	<p>ほかにごございますか。</p> <p>「なし」の声</p>
<p>小林議長 (齋藤副主幹)</p>	<p>それでは、次の内容に移らせていただきます。事務局よりお願いします。</p> <p>続きましてP 12～P 19の要点を説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 12～13 リサイクルプラザの3R等取組状況を記載。 各活動実績は直近5年間を記載。 ・ P 14～16 収集・運搬の現状、施設の概要は大きな変更なし。

発 言 者	発 言 内 容
<p>小林議長 森谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P17 ダイオキシン類の濃度測定方法に変更あり。 平成26年度まで：薬剤で固める前の飛灰を測定。 平成27年度以降：最終処分場で埋め立てる固化灰を測定。 ・ P18 最終処分場残余容量については平成27年度末で記載。 ・ P19 ごみ処理経費に関し直近5年間を記載。 <p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>冒頭の訂正内容の説明にもありましたが、P18最終処分場の概要において、埋立予定期間の終期について、本来は「平成40年度」とすべきところを単純に記載誤りで「平成44年度」としてしまったということでしょうか。</p>
<p>(横田副参事) 森谷委員</p>	<p>そのとおりでございます。</p> <p>次に、同箇所「残余容量 41, 791 m³」という記載がありますが、一般的な感覚として、それがどの程度の量なのか判然としません。イメージが容易になるよう、もう少し補足説明を加える等の工夫をすればいかがでしょうか。</p>
<p>(横田副参事)</p>	<p>まず、残余容量(41, 791 m³)の考え方について説明させていただきます。最終処分場の当初の計画埋立容量は121, 673 m³であり、平成28年度末時点での残余容量が41, 791 m³となっております。この残余容量を割合で表しますと、約34パーセントとなります。このようなことから、年間3,000 m³程度を埋め立てていく状態が続いた場合、あくまでも机上の計算では、平成40年度まで埋め立てが可能という結果になります。</p>
<p>(秋元所長)</p> <p>小林議長 剣持委員</p>	<p>ご指摘のように、これらの説明内容を加筆し、より分かりやすい表記とする方向で考えさせていただきます。</p> <p>ほかにごございますか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>P14「分別収集の現状」の表における用語の確認です。収集場所に関し、平成24年改訂版では「ステーション」と記載されていましたが、今回の改訂素案では「集積所」となっています。これは、今後「集積所」という表記に統一するという事によろしいですか。</p> <p>これにつきましては、事務局でも検討・調整を図りました。考え方の問題になるかと思いますが、各家庭のごみを一時的に集めておく場所という観点からしますと、「ステーション」という表現よりも、日本語による「集積所」という表現の方がより分かりやすいのではないかと多くの意見を占めました。今後はこちらの表現で統一させていただければと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
剣持委員 (石川副参事)	<p>同じくP14の「資源ごみ」欄の「紙類」について確認です。平成24年改訂版では、「雑誌(雑がみ)」というように、この2種をセットで記載していました。ところが今回の改訂素案を見ますと、「新聞・雑誌・雑がみ・ダンボール・紙パック」と記載されており、ややもすると「雑誌」と「雑がみ」を区別して個々に回収するような印象で記載されています。何らか意図的なものがあるのでしょうか。</p>
	<p>これは単に、毎年3月に各世帯にお配りしている「入間市の家庭ごみの分け方・出し方」の表記方法(雑誌・雑がみ)を参照したに過ぎず、特に深い意味はございません。ご審議いただき、「雑誌(雑がみ)」という表記に修正等は可能でございます。</p>
小林議長	<p>ほかにごございますか。</p>
森谷委員 (石川副参事)	<p>P19上段の表「ごみ処理経費」についてです。これを見ますと、平成23年度以降ごみ排出量が減少しているにもかかわらず、処理経費が増加していることがわかります。その理由は、長寿命化に向けた基幹設備の改修工事の実施など、冒頭の説明文に記載されているところです。ただ、施設の延命化のために改修工事費用がかさんでいることを明確にするために、ここは今一步踏み込んで、表の「ごみ処理経費」欄を分割し、例えば焼却などのいわゆるごみ処理費用と、改修工事費用とを分けて、実際の数字(経費)が目に見えるかたちで記載してはいかがでしょうか。その背景には、我々市民一人ひとりが、ごみの処理には貴重な税金が投入されており、多額のコストがかかっているという事実を再認識すべきとの思いもあります。</p>
	<p>前者の焼却などごみ処理費用につきましては、その他委託による収集運搬費用も関係してまいりますので、単純にごみ排出量の減少に比例しコストも減少するとまでは言えない部分もございます。より分かりやすいものとするために、ご指摘の内容につきまして、事務局にて検討させていただきます。</p>
岡野委員	<p>リサイクルや資源化等に要する費用もあると思いますので、ごみ排出量の減少と全体的なコストの減少は、完全には比例関係にあるとまではいえないと考えます。</p>
小林議長 各委員	<p>この内容について事務局にて検討をお願いします。ほかにごございますか。 「なし」の声</p>
小林議長 (齋藤副主幹)	<p>それでは、次の内容に移らせていただきます。事務局よりお願いします。 続きましてP20～P26の要点を説明させていただきます。 ・P20 平成27年度中間目標値と同年度実績値を比較。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ P21 ごみ処理の課題として、資源化・中間処理・最終処分を変更。 <ul style="list-style-type: none"> 4 中間処理：平成27年度からの5ヶ年改修計画を反映。 5 最終処分：最終処分場整備に係る前回の答申内容を反映。 ・ P22～23 人口予測・事業所数推移等について企画課データを採用。 ・ P24～26 ごみ排出量予測を8種類とし過去10年の実績値を利用。
<p>小林議長 相葉委員</p>	<p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>P20以降に各種数値が記載されておりますが、例えば、P20を見ますと、ごみ排出量に関し、平成24年度改訂時に設定した「平成27年度中間目標」が達成できていないことがわかります。市では、その原因と今後の対策等について、分析を行っているのでしょうか。また、それらの内容について、今回の改訂素案に記載されているのでしょうか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>今後、市として進めていくべき取り組み等につきましては、これからご説明する後半部分「第4章」に、「個別施策」というかたちで掲載させていただいております。ただ、事務局としましても、なぜ平成27年度中間目標が達成できなかったのかなどの数値等につきまして、完全に分析がなされていない部分もございます。例えば、P8上段の表「ごみ総排出量の実績」から、「1人1日あたりの家庭ごみ」が平成23年度以降ほぼ順調に漸減していたものの、平成27年度においては前年度と比べ1グラムしか減少していないことがわかります。これらの要因等についてももう少し細かく確認し、P20に分析結果として反映できないか再検討してみたいと思います。</p>
<p>森谷委員</p>	<p>P24の説明文で、ごみ排出量の将来予測に関し、「過去10年間の増減率を平均化」とありますが、過去10年間のデータを利用すると、数値がより平均化し薄まったものになってしまうように思います。より精度の高い予測とするためには、直近5年間のデータを採用してはいかがでしょうか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>事務局としましては過去10年間で試算しましたが、ご意見に基づき、半分の直近5年間でも試算を行い、比較検討を加えてみたいと考えます。</p>
<p>小林議長</p>	<p>ごみ排出量の将来予測については、数値等のとらえ方によって結果が違ってきます。特に、当市にもありますが大型店舗の出店などは当然に予測が困難であり、予測にあたりそれらの事情は考慮しておりませんので、各委員におかれましてはご了承をいただきたいと思います。</p>
<p>剣持委員</p>	<p>ほかにございますか。</p> <p>P20中段の表「ごみ排出量等の中間目標値と実績値」についてです。この表を見ますと、ごみ排出量の中に、「家庭ごみ」と「事業ごみ」がありま</p>

発 言 者	発 言 内 容
(石川副参事)	<p>すが、それぞれ使用されている単位も異なり、総合的にどの数値が計画の軸となるのかといったことが今ひとつ判然としません。種類は別として、計画の中でいずれかの数値を統一的な軸とすることはできませんか。</p> <p>一例を挙げますと、新聞等でプレスリリースされるデータなどは、ごみ総排出量から算出した数値が用いられております。一方、ただ今ご審議いただいております本計画改訂素案には、先ほどの説明のとおり、ごみ排出量・ごみ総排出量の考え方が異なり、それに伴いそれぞれの数値も異なってくるなど、ご指摘のように一般的にはやや区別が難しい部分がございます。しかしながら、事務局としましては、本計画においては、前回改訂の平成24年度版の記載方法も考慮し、ごみ処理の現状や将来予測を説明する上では、これら用語や数値の使い分けは必要と考えており、分かりにくいものにつきましては、先般お話しにありましたように、用語解説や注釈等で対応させていただきたいと考えております。</p>
剣持委員	<p>ごみ関係にある程度の知識のある方は用語の区別や数値の解釈ができるにしても、やはり一般的には難しいものと思います。市民に計画を公表する上においては、数値等の違いについて注釈を加えるなど、よりわかりやすいものにすべきと考えます。</p>
(石川副参事)	<p>先ほどと同様に、数値等については注釈を加えるなどし、誤解を招かぬよう、何らかの方法でよりわかりやすい表記にさせていただきます。</p>
剣持委員	<p>同様にP20についてです。前回の平成24年度改訂版では、国と県の数値も併記されていましたが、今回の改訂素案には記載しないのでしょうか。参考数値として、それらも記載されていた方がわかりやすいと思います。</p>
(齋藤副主幹)	<p>事務局では、素案作成段階で、それらの数値の記載も検討いたしました。が、関係各所のホームページ等を調べましても、国等から比較可能な数値が出されておらず、やむを得ずこのような表記とさせていただきました。</p>
小林議長	<p>事務局にて再度確認していただき、国等のもので記載可能な数値があれば追加するようお願いします。</p>
篠塚委員	<p>今の件に関しての補足ですが、例えば、前回の配布資料「ごみについて考える！」の下段にある平成27年度の数値と、改訂素案P8上段の表「ごみ総排出量の実績」にある平成27年度の数値が異なっております。このような場合、一般的にはすぐにその違いが分からないと考えられますので、生きた資料とするためにも、注釈を加えるなど記載方法を工夫したほうがよいと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
(石川副参事)	先ほども触れましたように、前者は「ごみ排出量」、後者は「ごみ総排出量」から算出した数値で、集団回収量の有無がポイントになるわけですが、ご指摘のとおり一般的には確かに分かりにくいと思います。いずれにしましても、用語や数値につきまして再度確認し、どのようにすればよりわかりやすい表記になるのか検討いたします。
小林議長	事務局にあつては、これを見る側の立場に立って、より分かりやすい表記となるよう工夫をお願いします。 ほかにございますか。
岡野委員	前回配布の資料1「ごみについて考える！」の下段にある数値についてですが、この部分を「ごみ排出量」にするのではなく、シンプルに集団回収量を含めた「ごみ総排出量」で記載するわけにはいかないのでしょうか。
(秋元所長)	集団回収分については、直接総合クリーンセンターに搬入されず、そのままリサイクル業者に渡るものでございます。しかしながら、集団回収に出された資源物は、もともとは家庭から出されたものであり、全体のごみ量を把握する上では、この分はこの分として別途集計する必要がございます。したがって、このような理由から、純粋に総合クリーンセンターで処理したごみ量（ごみ排出量）と、集団回収量を含めたごみ量（ごみ総排出量）を分けて考える必要があり、結果として2種類の数値を使用せざるを得ないというのが実情でございます。
岡野委員	事情は理解しました。そうであれば、資料1「ごみについて考える！」の下段に、「ごみ排出量」だけではなく「ごみ総排出量」も記載したほうが、市民の目線で見ても誤解が生じないものと思います。
(秋元所長)	この点につきましても併せて検討させていただきます。
小林議長	ほかにございますか。
各委員	「なし」の声
小林議長	それでは、次の内容に移らせていただきます。事務局よりお願いします。
(齋藤副主幹)	続きましてP27～P30の要点を説明させていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P27 ごみ処理基本方針について大きな変更なし。 ・ P28 次期最終処分場の建設準備に関する内容を明記。 ・ P29 国及び県の数値目標はP3計画の位置づけと連関する。 また、類似する表現であるが、埼玉県が定義する家庭系ごみ及び生活系ごみと、入間市が定義する家庭系ごみとは内容が異なるため注意を要する。

発 言 者	発 言 内 容
小林議長 各委員	<p>・ P30 入間市環境基本計画の進行管理指標は平成27年5月のもの。</p> <p>この部分に関してご質問等はございますか。</p> <p>「なし」の声</p>
小林議長	<p>この部分に関してのご質問はないようです。</p> <p>最後に全体を通してご質問等はございますか。</p>
森谷委員	<p>私個人として本日の審議で様々な内容が確認できました。ただ、「ごみ排出量」と「ごみ総排出量」については、やはり一見して分かりにくいものであると思います。本計画の策定にあたっては、より分かりやすいものとするために、「ごみ総排出量」については極力使用せず、「ごみ排出量」を軸として進めてはいかがでしょうか。例えば、「広報いるま」などを見ましても、「ごみ排出量」を軸として説明がなされております。</p>
(秋元所長)	<p>例えば、県のごみ処理統計に関する刊行物などを見ましても、やはり「ごみ排出量」と「ごみ総排出量」の両方を用いながら作成されております。ご指摘の主旨は十分理解できる箇所ではございますが、現時点では「ごみ排出量」のみを軸として計画を策定することは困難と考えます。</p>
向野委員	<p>ごみの資源化の重要性という観点からも、集団回収量に着目した数値の記載がないのはどうかと思います。語句による注釈のほかに、例えば、改訂素案もくじ下段にある「ごみ総排出量＝ごみ排出量＋集団回収」等の算式を応用し、「ごみ総排出量－ごみ排出量＝集団回収」というような算式を実際の「数字」で記載してみたいはいかがでしょうか。いずれにしても、ごみの資源化に関する内容はとても重要と考えます。</p>
(山崎部長)	<p>今般皆様にご審議をお願いしております内容は、「入間市一般廃棄物処理基本計画」でございます。そこで、あらためまして一般廃棄物の定義を確認させていただきますと、やや極論となりますが、入間市域で発生したすべてのごみのうち、産業廃棄物を除いたものがそれに当たります。したがって、集団回収で排出されたものも一般廃棄物ということになります。計画の策定において、それを省いてしまうことは、廃棄物処理法上、同法で定められた市町村がなすべき義務を無視してしまうことになってしまいますので、やはり集団回収に関する内容については盛り込む必要があると考えます。</p> <p>ただ、市民の方々が計画を見て、より分かりやすいように記載しなければならぬという思いはございます。先ほどから担当職員の回答にもありますように、その点は十分配慮して計画策定に当たらせていただきますが、分かりやすさを追求するあまりに、本来必要な部分を排除して計画を策定すると</p>

発 言 者	発 言 内 容
森谷委員 小林議長 山本委員 (石川副参事)	<p>というのは、やや無理があるものと考えます。</p> <p>今の山崎部長の説明で理解しました。</p> <p>事務局にて再検討していただき、より分かりやすいものとしてください。</p> <p>参考までに、集団回収に市が支出している補助金額はどのくらいですか。</p> <p>改訂素案P 1 3の表をご覧ください。表の3段目の「資源再利用」という部分に「奨励補助金」の記載がございます。直近の平成27年度を例に取りますと、「11,248,244円」となっております。</p>
小林議長 剣持委員 (石川副参事)	<p>ほかにございますか。</p> <p>P 2 2「人口の予測」のグラフについてです。前回の平成24年度改訂版では、年齢構成別に記載がされておりましたが、今回の改訂素案では、単に総人口の推移が記載されているのみです。高齢化社会の進行に呼応して、今後紙おむつ等を使用する高齢者が増える等の要因から、全体のごみ排出量も増えるとの予想もされております。そのような観点から、今回の改訂素案においても、従前と同様に年齢構成別の記載とした方がよいと考えます。</p>
小林議長 相葉委員 (石川副参事)	<p>その点につきましても、再度検討させていただきます。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>例えば、民間業者による廃品回収、スーパー等での自主回収の量は、市では把握しているのでしょうか。</p>
小林議長 各委員 (石川副参事)	<p>ほかに関新聞販売店による自主回収等もそうですが、それらの量については、市町村レベルでは把握しているところは少ないと思われます。それは当市におきましても同様の状況であり、具体的な数値の把握が困難なことから、市で行っているごみ排出量の集計にも含まれておりません。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>「なし」の声</p>
小林議長 (齋藤副主幹)	<p>それでは、議題(2)『その他』について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは、議題(2)『その他』について説明させていただきます。</p> <p>次回の第6回会議につきましては、2月17日(金)午後1時30分からとさせていただきます。通知につきましては、失礼ながら、この場にてお渡しをさせていただきます。</p>
小林議長	<p>次回は、改訂素案P 3 1以降の後半部分の審議となります。委員の皆様におかれましては、事前に内容の確認をお願いいたします。</p> <p>議題(2)『その他』について、ご質問等はございますか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
各委員 小林議長 (増岡主幹) (齋藤副主幹) (増岡主幹) 各委員 (増岡主幹)	<p>「なし」の声</p> <p>特にないようでしたら、以上で全審議事項について終了とし、議長の座を下ろさせていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、ご協力大変ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第4にございます『その他』に移らせていただきます。事務局からお伝えすることはありますか。</p> <p>「平成28年度ごみ減量講演会」のご案内をさせていただきます。具体的な内容につきましては、お手元に配布の案内文書のとおりです。開催日時は本年3月3日（金）午後2時から、場所はこくりサイクルプラザとなっております。演題につきましては、日頃市民から分別がわかりにくい等の声が寄せられることもあり、「プラスチック容器包装リサイクル」に関する内容となっております。委員の皆様のご参加をお待ちしております。</p> <p>全体を通しまして委員の皆様からご質疑等はございますか。</p> <p>「特になし」の声</p> <p>これもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p>	
<p>平成 年 月 日</p>	
<p>議 長 の 署 名 _____</p>	
<p>議長が指名した者の署名 _____</p>	